岩手県普代村太田名部地区における防潮堤に関する意識調査

岩手大学　学生会員　○小笠原千尋，正会員　松林由里子，堺茂樹

1.　はじめに

2011年3月11日の東日本大震災で東北地方太平洋沿岸地域は甚大な被害を受けた。被害を受けた市町村は今、復興へ向けてまちづくりの計画を立てている。防潮堤についても、より高いものの建設を計画している市町村が多くあるが、街の景観や利便性への影響が懸念されている。そこで、今回防潮堤により防潮堤内の被害がなかった岩手県普代村太田名部地区の住民101人を対象に、防潮堤についてのアンケート調査を行った。太田名部地区は、明治29年の明治三陸津波と昭和8年の昭和三陸津波による被害があった。(例えば、山田,1984) 高さT.P.+15.5mの太田名部地区の防潮堤は、昭和三陸津波の後で建設がはじめられ、1967年に完成したものである。

2.　アンケート概要

2011年12月17日、18日に岩手県普代村太田名部地区において、防潮堤に関する意識についてと東日本大震災時の避難行動や防災意識について住民101人に対してヒアリングによるアンケート調査を行った。

3.　アンケート調査結果

アンケート回答者の年代と性別の割合は図-1のようになっており、男性49人、女性52人であった。年代別にみると男女ともに半数以上が60歳以上である。図-2は防潮堤建設前から住んでいた人に「建設に賛成だったか、反対だったか」という質問をしたものである。約半数が「賛成だった」と回答しており、「反対だった」と答えた人が一人もいなかった。

また、図-3は防潮堤の役割に関する問の回答結果を示したものである。9割以上が津波から人的、物的被害を防ぐ為と選択した。

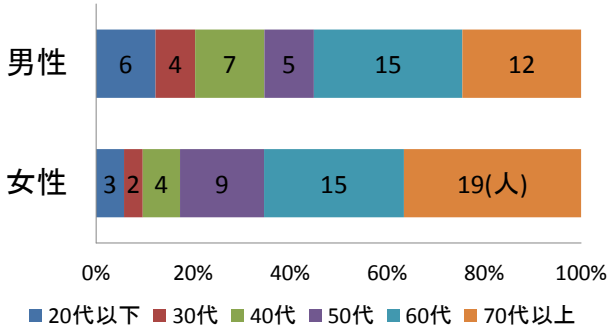

図-1：男女別の年代

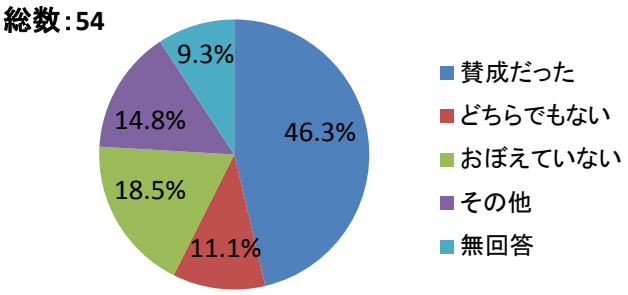

図-2：防潮堤建設

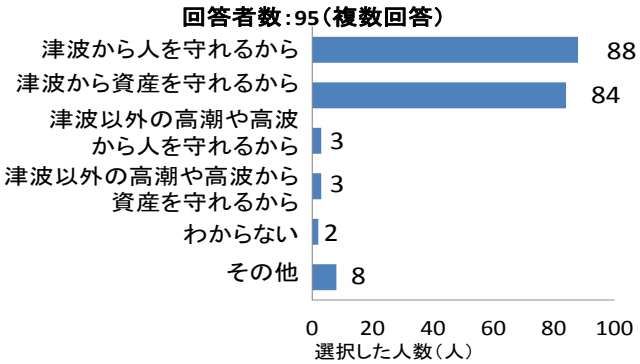

図-3：防潮堤の役割

図-4、図-5は防潮堤建設前から住んでいる人は防潮堤完成時に、防潮堤完成後に住み始めた人は初めて見た時、物心ついた頃から防潮堤があった人は幼い頃に、それぞれ「集落からの海の眺望に関してどう思ったか」という質問に対する回答結果である。「不便・眺望が悪い」と答えた人が1割未満だった。年代別でみると、「不便、

キーワード　防潮堤、津波避難、普代村
岩手県盛岡市上田4-3-5　岩手大学工学部社会環境工学科・019-621-6448・019-621-6448

眺望が悪いと思った」と答えた人は 50 代以上しかおらず、40 代以下は眺望が悪いと思っていなかった事が分かる。また、ヒアリングで「防潮堤を毎日散歩している」、「日常的に防潮堤の上から海の様子を見ている」という意見が複数聞かれた。

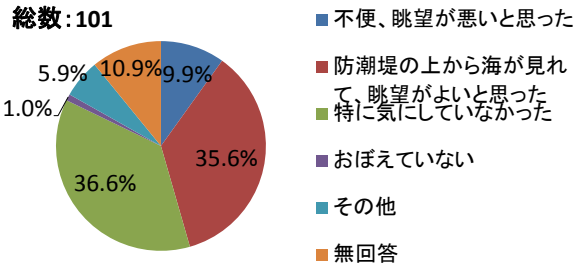

図-4：集落からの眺望

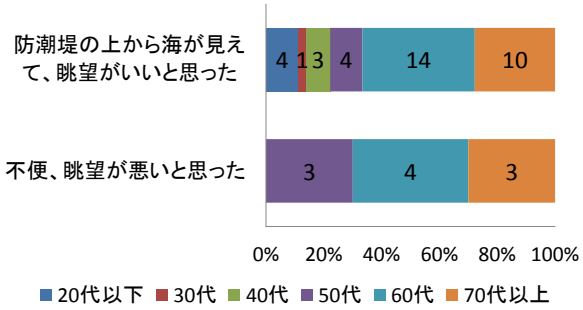

図-5：集落からの眺望（年代別）

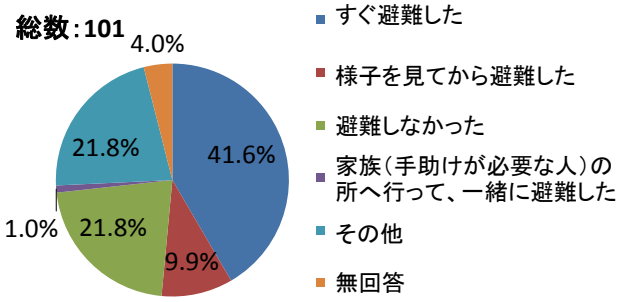

図-6：避難の有無

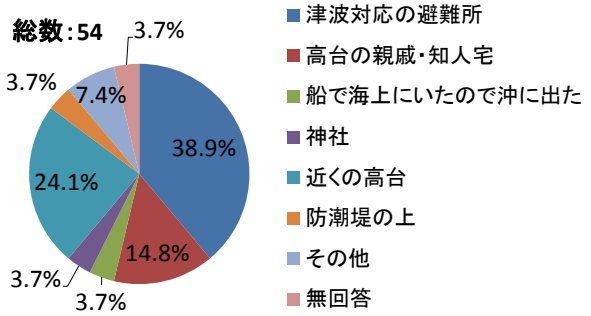

図-7：避難場所

次に、東日本大震災発生時の避難行動に関する問の回答結果について述べる。図-6 は避難の有無について、図-7 は避難した場所についてのグラフである。半数以上が避難行動をとっており、指定の避難場所に避難した人も 4 割近くいた。「避難しなかった」と答えた 22 人のうち避難しなかった理由として「家が高台にあるから」と答えた人が 11 人いた。一方、「避難した」と答えた人の中に「防潮堤の上に避難した」と答えた人が何人かいた。「避難していない」と答えた人の中にも、防潮堤の上に海の様子を見に行ったと答えた人がいた。

4. 考察

回答結果より、太田名部地区の住民は防潮堤の役割について、津波から人命や資産を守るためと回答した人が多く、防潮堤建設前から住んでいる人は防潮堤建設に反対していなかったことが分かった。不便、眺望が悪いと思っていた人は 1 割未満で、眺望がよい、気にしていなかった、という人が 7 割以上であった。これより、住民にとって防潮堤は街の景観や利便性に悪い影響だけではないということが分かる。また、年代別にみると、40 代以下は不便、眺望が悪いと思っていない。防潮堤建設は 1967 年であり、建設当時は現在の 40 代はまだ幼く、建設前の景色を知らない、覚えていないということが影響していると考えられる。また、東日本大震災時は約半数が避難行動をとっていたが、防潮堤の上に避難した人や津波の様子を防潮堤の上に見に行った人もいた。東日本大震災では津波によって防潮堤が倒壊した、津波が防潮堤を越えた、という地域もあり、危険である。これより、より適切な避難行動を行うためには、東日本大震災時の防潮堤の被害状況や、防潮堤に関する知識の啓蒙が有効だと考えられる。

参考文献

山田 勲（1984）『普代村史』普代村 362pp.
太田名部物語をつくる会（2006）『太田名部物語』